

協働のまちづくり協議会（第2回）会議概要

平成27年度 協働事業・市民活動助成事業 事業成果報告会

《日 時》 平成28年5月15日（日） 13時30分～17時
《場 所》 松戸市役所 議会棟3階 特別委員会室
《委 員》 犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長、文入 加代子 委員、杉浦 利彦 委員、
長江 曜子 委員、牧野 昌子 委員、江藤 政継 委員、郡 正信 委員
《傍聴者》 8名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 諸注意等

4 報告および質疑応答

質疑応答

① <地域連携自主防災事業>について

団体名：栗ヶ沢中学校地域防災委員会、担当課：危機管理課
報告及び質疑応答

- 委 員 団体は、何名体制で運営しているのか。また、どのようなメンバー構成なのか。
団 体 委員登録は70名である。11町会から参加している。その他にも様々な人で委員会を構成している。
- 委 員 収支決算の支出のうち、消耗品費と印刷製本費が、当初予算からずれている。印刷製本費が少額になっており、消耗品費が増額となっているが、印刷製本費として使わなくなったので消耗品を多く購入したということか。
- 団 体 お見込みのとおりである。
- 委 員 災害時は、誰もが被災者になる。何名か運営者が欠ける場合もあると思うが、その点はどのように考えているのか。
- 団 体 一つの避難所に対し、30名から40名の運営者が必要である。避難所ごとに担当町会を決めている。各町会から役員が訓練に参加している。どのような人が欠けても、避難所は開設する。
- 委 員 作成を予定していた冊子が、隣の町会との兼ね合いで完成に至らなかったということだが、近隣との関係性について教えてほしい。
- 団 体 小金原地区の南側が栗ヶ沢地域、北側が根木内地域だが、栗ヶ沢地域だけでな

く小金原地域全体の説明を入れたいと考えている。最近、小金原連合町会に防災部が出来た。そのことを記載するには平成 27 年度中の完成は無理であり、その記載が入れられないのであれば冊子を作る意味がないと考え、完成を見送った。平成 29 年度事業として、申請したいと考えている。

- 委員 団体の管内で、参加できていない自治会はあるのか。
- 団体 栗ヶ沢中学校地域の町会自治会はほぼ全て参加している。我々の活動を見て、当初は加わっていなかった自治会が後から加わってくれた。ただし、線引きが目に見えるわけではないので、管内以外から避難所に来るであろう人について、周辺自治会や柏市の自治会と話すことはまだ出来ていない。
- 委員 協働担当課との連携が報告書にしっかりと書かれていて、評価できる。団体と担当課の連携はどの程度図れているのか。
- 担当課 団体が市民活動助成事業を実施しているときから話していたが、協働事業になってからは、より密になった。年 3 回の会議の前は必ず直接会って打ち合わせし、その他逐一 E メールで進捗を確認し合っている。このことによって市側の意識も高まった。今後も続けていきたい。
- 委員 特に防災関係では、一人で避難できない方の把握、支援方法の熟知というものが、地域に根ざすという点で、活動の三つの柱の一つにしていただければ、評価できる。

② <協働による「協働のまちづくり講演会」事業>について

団体名：特定非営利活動法人まつど N P O 協議会、担当課：市民自治課
報告及び質疑応答

- 委員 団体の活動人数を教えてください。また、団体の自己評価は 5、担当課の自己評価は 3 となっているが、このギャップは何か。イベントの土日開催が難しいとのことだが、なぜか。市の職員が休日出勤となるのが難しいのか。市民に参加いただくには土日開催のほうが有効だと思う。
- 団体 約 40 団体に活動している。市民活動団体の会員数までは把握できていないが、現在理事のほうで 10 団体ほどが中心となって活動している。
自己評価については、予算執行については団体として大きな課題がなかったと感じており、5 をつけた。担当課との意思疎通については、月に一回程度の打合せをしており、密にできていたと考え、5 をつけた。
- 担当課 自己評価については、提案段階で、団体に要約筆記に係る費用を伝えるべきだった。予算計上しなかったため、担当課予算で支出した。意思疎通については、団体と何度も打合せを重ねてはいたが、当日の動き等に認識差があり、十分に意思疎通出来ていなかったと感じ、3 をつけた。
休日の開催については、職員は研修、公務での出席となるので、それに係る時間外手当が発生することから難しく、今年度も平日の開催になると思う。
- 委員 インタビュー冊子の部数と配布先を教えてください。
- 団体 部数は 300 部である。当日来場者に配布したほか、公共施設への設置というこ

- とで、市民自治課とまつど市民活動サポートセンターにて配布している。
- 委員 冊子の内容を、ウェブ上での公開も考えていただきたい。情報を公開し、成果を広げて行ってほしい。
- 団体 ウェブ上での公開については、今年度事業で実施する。
- 委員 目標に、参加人数を平成 25 年度比 5 割増と掲げていながら、平成 25 年度より少なかったことや、アンケートで、構成が講演会とは言いがたいという意見もあり、満足度が高くなかったようだが、それにしても自己評価が甘いのではないか。
- 団体 団体としては、成果目標の達成度は 4 という自己評価であり、反省点もあるが、得られた成果も大きかったことから、その点を加味している。
- 委員 どちらかという事業委託という性格が強い事業だが、協働に向かっているという点が評価できる。実施に団体が入ったことで、平等な視点が加わった点が素晴らしい。一見矛盾するような疑問、意思決定が遅くなる、より多くの参加が求められるということをそれぞれ書いているが、このようなことを解決していくのがまさに協働だと思う。今後の当該事業に期待するものが非常に大きい。

③ <河原塚史編纂事業>について

団体名：河原塚史編纂委員会

報告及び質疑応答

- 委員 今後をふまえて、事業の成果を小中学校と共有することを強く望む。一人暮らしの高齢者への配慮等を考えることも大切だが、本事業は地域連携、文化への興味、世代間交流が備わった良い事業だと思う。ぜひ発展させてほしい。
- 団体 集大成として本を発行した後も、継続して発展に努めたい。
- 委員 今年度中に本が完成するのであれば、来春等に史跡歩きイベントを開催するなどし、広めていただきたい。また、ぜひ若い世代にも引き継いでほしい。
- 団体 この活動を通じて、河原塚にあるものに詳しくなった。ぜひ、我々だけにとどめずに、広げていきたい。地域に関心を持ち、愛着を育むことの大切さを実感している。
- 委員 今手元の成果物を見ているが、まちの歴史という項目では、身近なことが詳しく書かれていて、興味深い。本の作成に期待している。本は何部発行するのか。
- 団体 今のところ 2,300 から 2,400 部を予定している。
- 委員 NPO が出版する際は、協力者には無料で配ると思うが、定価を明記するなど、単に無料で配るのではなく、次に繋がるよう、市と相談をしてほしい。予算が大きく影響すると思うが、効果的な配布をしてほしい。
- 団体 資金は市からの補助、協賛金で賄う。地域の中で非常に関心を持ってくださっている方がたくさんいて、協力に名乗りを上げていただいている。近隣の寺社からも協力の申し出を受けており、資金面での心配はない。
- 委員 素晴らしい事業であり、特に、市が作る市史と違い民間の力で作り上げていることが評価できる。協働事業や他地域への発展を考えると、教育委員会や校長

会とも協力し、生きた郷土愛を育んでほしい。

団体 教育委員会等には既に協力をいただいている。本が出来上がった段階で進呈する。他にも静岡県島田市の教育委員会や、調査協力いただいた各所にも進呈する。

④ <「カレーを食べる会」事業>について

団体名：五番街ふれあいセンター

報告及び質疑応答

委員 事業が上手くいっていることが十分に伝わってきた。見守り情報を災害支援にどうつなげるかをぜひ考えてほしい。この事業から派生して、炊き出しなどにも期待が持てる。また、運営側も高齢化することから、若い世代に引き継ぐことも検討してほしい。

委員 月に一度の開催ということだが、会場のキャパシティはどの程度か。
団体 当初、参加者は50名程度だったのだが、予想を超える参加者増に、少し困っているほどである。スタッフを含め80名を収容できるホールで開催している。今後も増えていった場合、スタッフは何人かを残して別室で食べたり帰ったりすることも考える。また、夫婦での参加が増え、夫婦の一方しか参加できない場合には、自宅まで配食しているが、このようなケースが増えているので、考えていく必要性を感じている。

委員 本事業は、ソーシャルキャピタルが上手く成立している。ソーシャルキャピタルの要素である、絆が作られること、お互い様意識ができること、信頼が生まれることの三点が見事に備わっている。難しいのは、いかに維持していくである。より多くの人たちの参加ということが求められる。
提案時にはレトルトを使う予定だったが、手作りになったのも素晴らしい。良い事業なので、これからも頑張ってもらいたい。

団体 調理には、菜園と男の料理の2つのサークルに協力してもらっている。若い世代の巻き込みということで、子ども会スタッフといかに融合するかを考えているが、イルミネーションや七夕の飾り付けを一緒にしたりすることから始めている。

委員 夫婦のうち、一方が不参加の場合の宅配は良いアイデアだと思う。参加者が参加できなくなったときにどうするか、今後考えてほしい。

委員 食の字は人を良くすると書くが、発表を聞いていて、まさにそのとおりだと感じた。外からの視察を受け入れているとのことだが、近隣とのつながりはあるのか。

団体 地区社会福祉協議会がふれあい会食会を行っているが、本事業はその補完の役割も果たしている。新松戸には多くのサロンがあり、各サロン運営者に交代で来てもらい、ノウハウを話し、徐々に広がっている。

⑤ <伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会・ワークショップ事

業 part2>について

団体名：東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト
報告及び質疑応答

- 委員 マップ作りの際の街歩きは、どのエリアで実施したのか。
- 団体 会場の女性センターを起点に、班に分かれて全部で4ルートを歩いた。
- 委員 マップ作りのための街歩きを、今回は女性センター周辺で実施されたとのことだが、自分の住む地域で、各自がやってみることが今後生きてくると思う。イベント参加者は各地から来たと思うが、それぞれの方が住む場で役立つマップ作りが広がると良い。
- 団体 今秋もイベントを実施する。これからも継続していく。避難者にも加わってもらい、自分の住む地域へ戻ったとき、新たなコミュニティ作りのツールとして、マップ作りを活用してほしい。松戸市民には、これを機に家族で話し合い、マップ作りに挑戦してほしい。
- 委員 マップ作りをしていく中で、危険な箇所をチェックすると思うが、その気づきを、改善に結びつけるとより有益である。そのためには、市と協働することも必要である。大変素晴らしい取り組みなので、広がり期待している。
- 団体 市民が自分の目線で歩くことの大切さを感じている。
- 委員 マップ作りの話が続いているが、その先を見据えた計画はしているのか。
- 団体 まだそこまで進んでいない。マップ作りの上で注意すべきポイントをまとめることを考えている。
- 委員 経験を他者に伝えることが大切である。これからも頑張してほしい。
- 委員 本事業の一番素晴らしいところは、連携の核がある点である。講演会やマップ作りワークショップに様々な団体や行政が参加しており、そこに連携の核になる部分があるのだと思う。
- 団体 我々も、参加者との関係をイベントで終わらせず、なるべく次につなげていきたいと考えている。また、参加者がイベントで学んだことをそれぞれが活かしてくれることを願っている。

⑥ <認知症の啓発活動と患者・家族の支援体制づくり事業>について

団体名：松飛台自治会連合会

※団体側都合により欠席

⑦ <けん玉で遊ぼう事業Ⅱ>について

団体名：昔のあそびと遊ぼう会

報告及び質疑応答

- 委員 5年間、協働事業と市民活動助成事業を実施されたが、引き続き参加費を無料とするという点が心配である。団体の会員は何名で、会費はいくらか。行事保

- 険のこともあるので、参加費を 50 円でも 100 円でも徴収してはいいか。
- 団体 当初参加者から参加費を徴収していたが、協働のまちづくり協議会委員から徴収しないほうが良いという助言を過去に受け、それから徴収するのをやめた。他のけん玉教室では、参加料が高い所は 5,000 円くらい徴収している。無料のほうが子どもたちが参加しやすいので、無料にして良かった。出張教室でも徴収していないが、厚意で謝礼をいただけることもある。謝礼を運営に充てるので、これからも参加費は無料で継続できると考えている。運営側の会員からは、お茶代程度の会費を徴収し、その範囲内で今のところ賄っている。けん玉は健康の向上にも繋がるので、今後も教室を続けていきたい。
- 委員 毎月盛況のようだが、どのように周知しているのか。ちらし 1,000 枚と記載されているが、どのように配ったのか。他市からの参加もあるとのことだが、周知の効果なのか。
- 団体 ちらしは学校などで配布しているが、ちらし自体はあまり効果がない。子どもたちが来て、友達に話してくれたことが良かったと思う。昇段、昇級試験も実施している。参加者の口コミが一番有効だと実感している。参加費が無料であること、講師がたくさんいることも選ばれる要素だと思う。広報力は、広報まっつどが一番だと思う。記事が載ると必ず反響がある。
- 委員 他市の参加者も口コミがきっかけで来ているのか。
- 団体 参加した子どもたちが親戚の子にも話してくれているようである。
- 委員 助成金は終了したが、頑張っていて続けてほしい。
- 委員 世代間交流に言及しているが、参加者は小学生だけではないのか。
- 団体 大人も子どもも参加してくれている。比率は 4 対 6 くらいである。親子で参加してくれたりしている。

⑧ <外国人の子ども支援を考える事業>について

団体名：認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会

報告及び質疑応答

- 委員 参加者が多く、良い成果だと思う。当事者の若者がパネラーとして参加したことは有意義である。
課題解決に向けて、新たな支援者が現れたということだが、詳しく聞かせてほしい。
- 団体 講座を聞いてくださった方の中から、普段実施している学習教室に参加したいという方が数名いる。既に会員になってくださった方も数名いる。また、会報を読み寄附をくださった方がいる。バザーを実施しているが、献品して下さる方が増えた。
- 委員 審査のときから素晴らしい事業だと思っていた。松戸市が多文化共生という点で、他市よりも素晴らしくなる一つの起爆剤になると思う。期待している。
日本語で外国人の子どもたちに教えているのか。進路指導はどうしているのか。
- 団体 我々は、日本語を教える活動から出発し、現在は教科の支援と日本語の支援を

行なっている。クラスを小学生と中学生で分けており、中学生向けに高校受験対策もしている。

子どもたちが外国人枠のある千葉県立高校に入学できるよう、学力アップ教室を企画し、今年度市民活動助成事業のステップアップ助成として実施している。専門家の指導を受けながら、基礎的な授業を行なっている。外国人枠の受験は面接と作文のみだが、基礎学力が無いと入学後授業についていけなくなってしまうので、基礎学力の醸成に力を入れていきたい。

委員 他にも同様の事業を実施している団体があると思うが、常盤平団地で実施しているのは貴団体か。

団体 常盤平団地と伊勢丹横で教室を行なっている。

委員 市立、私立の高校にはどのような外国人生徒向けの支援体制があるのか。

団体 市立松戸高校には外国人枠はないが、国際コースがある。5科目受験なので難しいが、もっと入学者を増やせるよう、対策していく。

委員 教育委員会や市と連携し、実情に合わせて発展することを望む。

⑨ <知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳を市民に手渡ししたい～講演会の実施等で～事業>について

団体名：食の安全安心を考える市民の会

報告及び質疑応答

委員 食事は生命に関わる大切な部分なので、安全のために正しい情報を得なければならぬと思うが、そのあたりの考えを聞かせてほしい。

団体 千葉大学に食の安全講座があり、市民は無料で聴講できる。我々は受講生が集まってできた団体である。情報収集のために、今も気になる講義があれば受講している。法律は日々変わっていくので、情報収集している。

委員 千葉大学の公開講座から市民活動が生まれたというのは素晴らしい。マスコミに取り上げられるということは、期待が大きいと言える。今後、戦略計画を明確にすると良い。透明性の確保も重要である。活動を対外的に明確に見せることができれば、それは市民活動の理想形であると言える。

団体 依頼を受け出演した番組のテレビ局から、手帳の続編を期待されている。

委員 課題の中で、後継の育成について言及しているが、その点をどう考えているのか。

団体 我々も高齢になってきた。千葉大学で受講する際に興味がある方に声をかけたりしている。若い世代にこれからの活動を担ってほしいと考えている。子育て支援のNPO法人とつながりを持てたので、その中から手伝ってくれる方がいれば幸いである。男性の参加も増やしたい。

委員 子育て中の世代の関心事なので、ぜひ今後も進めて行ってほしい。千葉大学以外にも、栄養系の大学にも注目していただければと思う。聖徳大学にも栄養系の学科がある。

会長 活動の広がりがあり、手応えがあって、周りの期待も膨らんできているという

印象を受けた。周りの期待に対し無理して応えようとせず、できることからやってみて、自分たちの活動を大切にしてほしい。場合によっては他の団体の力を借りる、任せることも考えてみてほしい。

⑩ < 団塊シニア世代の地域デビュー事業 > について

団体名： 認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど
報告及び質疑応答

- 委員 この事業の目的は、地域の活動に見向きもしなかった市民が参加するというものである。25名が実地研修まで参加し、受け入れ団体は4団体だったということだが、参加者の感想を教えてください。
- 団体 6月21日に受け入れ団体と参加者とのマッチングを行ったが、その後の追跡は行っていないので、マッチングシートの情報しかわからない。
- 委員 団体が自分で立てた目標に対する効果や成果の指標として、今質問した事項は重要である。市も成果のために助成金を交付しているの、そのようなことを大切にしてほしい。
- 委員 決算の中で、通信費が予算よりかなり増額しているが、その理由は何か。20万円かかったことは、ちらし発送2,000部が影響しているのか。その2,000部は団体や町会に送ったのか。
- 団体 他の方にも送った。
- 委員 団塊シニアは800万人くらいいるそうなので、地域デビュー事業を実施したことは評価できる。参加者の男女比、どんな仕事をしていたかなど、属性分析はしているか。女性も、今まで仕事をしていて、退職後に学びたいと考えて参加した方は多いと思います。満足度やアンケート分析はしたか。
- 団体 毎回アンケートを取った。
- 委員 ぜひ男女の性差によるニーズの違いを把握し、その上で受け入れ団体を選定し、事業を深めていってもらえるとありがたい。

6 総評 会長

7 閉会